

晩秋の干潟

■カニ類の活動低下

気温が低くなり、干潟で活動しているカニの仲間は見られなかった。巣穴の中にはコメツキガニが潜んでいた (Fig.1)。水温が下がるのは気温より遅く、水辺ではヤマトオサガニが活動していた (Fig.2)。警戒して水中から目だけを出している様子も観察できた (Fig.3)。



(Fig.1 巣穴の中のコメツキガニ ※赤囲み内)



(Fig.2 水辺で活動するヤマトオサガニ)



(Fig.3 水中から目だけ出すヤマトオサガニ)

■餌に集まる生物

陸上ではカニ類の活動が見られなくなっているが、水中では活発な生物の様子が見られた。水中に貝のむき身を落としたりしたところ、潜んでいた生物が現れ餌を奪い合う様子が見られた。Fig.4・5は餌に集まってきたケフサイソガニとハゼの仲間である。ハゼの仲間はチチブではないかと思われるが、同定することはできなかった。



(Fig.4・5 餌に集まったケフサイソガニ、ハゼの仲間)